FD NEWSLETTER

CONTENTS

- The codding of the Japanese mind too
  教務部長　学長補佐
  グローバル・メディア・
  スタディーズ学部教授
  絹川　真哉
- 2021 年度「学生による授業アンケート」
  （後期）集計結果
- 対面式グループ・ワーク発表から
  オンライン発表へ：紆余曲折の試み
  総合教育研究部教授
  矢野　秀武
- 令和 3 年度第 3 回ＦＤ研修会報告
- 令和 4 年度新規採用教員
  オリエンテーション開催のお知らせ

The coddling of the Japanese mind too

教務部長・学長補佐
グローバル・メディア・スタディーズ学部教授
絹川　真哉

今の学生の多くが精神的に幼くかつ脆いと感じている教員は私だけではないだろう。これは日本で顕著な現象と長い間思っていたが違った。Greg Lukianoff and Jonathan Haidt. *The Coddling of the American Mind.* Penguin Press, 2018 によれば、2013 年頃から米国の大学に入学し始めた iGen と呼ばれる世代では、不安症やうつ症状を発症し、「感情の安全」または「自分に同意しない人々からの安全」を求める学生が増加しているそうだ。そして、カナダとイギリスでも程度の差はあっても同様の傾向がみられるとのことである。同書ではその要因を 6 つ挙げており、米国特有の事情の他、SNS の子どもへの浸透、親の過保護、そして自由な遊び時間の減少という、日本や他の先進国にもそのまま当てはまる要因もある。親の過度な安全志向と大学への進学熱上昇により、子どもが自由に外で遊ぶ機会が減少、親の監視を離れて子どもだけで様々な経験を積む機会が失われた。代わりに家で勉強し、スマートフォン等電子端末に接する時間が長くなる中、友人関係も SNS 上で構築され、「仲間外れになる恐怖」を常に感じている。結果、精神的に幼くかつ脆くなった、との考察である。現在の 18 歳はかつての 15 歳のように振る舞うと指摘する研究者もいるそうだ。

若者が精神的に未熟になっているのは先進国共通の現象のようである。「学生目線」の授業を行うためには「子ども目線」に立つことも必要になるのだろう。では、学生はいつどこで、大人に成長する機会を得られるのだろうか？大学卒業後は、必ずしも「新社会人目線」には立ってくれない大人たちと接して仕事をしなければならないのである。

1978 年から 1993 年までシカゴ大学学長を務めた Hanna Holborn Gray は「Education should not be intended to make people comfortable; it is meant to make them think」と述べた。この理念の下で大学教育を行うことは年々難しくなっていると感じている。今の若者にどう接し、どのような方法で高等教育を行うべきなのか。教員はそのノウハウを交換・共有していくべきであり、FD がそのような場として機能する必要がある。令和 4 年度 4 月より、本学の新しいグループウェア Garoon の運用が始まる。グループウェアを活用し、教員同士での情報共有を積極的に進めていきたい。

2021 年度「学生による授業アンケート」（後期）の集計結果―昨年度後期の結果との比較

2021 年度「学生による授業アンケート」（後期）を以下の通り実施しました。後期は，皆さまご承知の通り，履修人数によって授業形態が異なる形となり，対面授業・オンライン授業が併存する状況となりました。以下では，昨年度後期の回答結果と比較しながら，今年度後期アンケートの検証結果を報告いたします。

【アンケート概要】（括弧内は昨年度）
実施期間：2021 年 12 月 4 日～12 月 24 日
（2020 年 11 月 30 日～12 月 12 日）
対象科目数：2,334 科目（1,891 科目）
対象者数（延べ人数）：129,069 人（122,268 人）
有効回答数：67,890 件（55,912 件）
回答率：52.6%（45.7%）

【質問項目】
Q1. どのような理由でこの授業を履修しましたか。（複数選択可）
・シラバスを見て授業内容に興味を持った
・シラバス以外の情報（友人等）により、授業内容に興味を持った
・履修モデル（コース制等）を見て決めた
・資格の取得
・必修科目または選択科目だったから
・時間割（曜日時限）を考慮して決めた
・その他
Q2. この授業の授業外学習（予習・復習・課題・試験準備など）の時間は 1 週間に何時間くらいですか。
5：3 時間以上～
4：2 時間以上～3 時間未満
3：1 時間以上～2 時間未満
2：1 時間未満
1：全くしていない
Q3. あなたは授業に積極的に取り組めていますか。
5：そう思う
4：ややそう思う
3：どちらとも言えない
2：ややそう思わない
1：そう思わない
Q4. この授業を何回欠席しましたか。
※学外の実習を伴う場合には、学内の授業について回答してください。
（半期科目）
6：0 回　5：1 回　4：2 回　3：3 回　2：4 回　1：5 回以上
（通年科目）
11：0 回　10：1 回　9：2 回　8：3 回　7：4 回　6：5 回　5：6 回　4：7 回　3：8 回　2：9 回　1：10 回以上

Q5. 授業時間・回数は確保されていますか。（補講・YeStudy 等による課題授業含む）※学外の実習を伴う場合には、学内の授業について回答してください。
Q6. この授業はシラバスの内容に沿って行われていますか。
Q7. この授業の進み方はあなたにとって適切ですか。
※学外の実習を伴う場合には、学内の授業について回答してください。
（Q5～7 選択肢）
5：そう思う
4：ややそう思う
3：どちらとも言えない
2：ややそう思わない
1：そう思わない
Q8. この授業での教材・資料（配信教材）や板書は授業内容を理解するうえで効果的ですか。
※学外の実習を伴う場合には、学内の授業について回答してください。
5：そう思う
4：ややそう思う
3：どちらとも言えない
2：ややそう思わない
1：そう思わない
0：教科書・配付資料（配信教材）等がない授業
Q9. 教員は授業内容に沿った話し方や授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか。
※学外の実習を伴う場合には、学内の授業について回答してください。
5：そう思う

4：ややそう思う
3：どちらとも言えない
2：ややそう思わない
1：そう思わない

Q10.教員はあなたの意見や質問に対して適切に対応していますか。※学外の実習を伴う場合には、学内の授業について回答してください。
5：そう思う
4：ややそう思う
3：どちらとも言えない
2：ややそう思わない
1：そう思わない
0：あなたが当該授業において意見・質問をしたことがない場合

Q11.あなたはこの科目の授業内容についてよく理解できていますか。※学外の実習を伴う場合には、学内の授業について回答してください。

Q12.あなたはこの授業を通じて自主的な学びの姿勢が身に付きましたか。

Q13.あなたはこの授業によって力がついたと思いますか。
（Q.11～13 選択肢）
5：そう思う
4：ややそう思う
3：どちらとも言えない
2：ややそう思わない
1：そう思わない

Q14.この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q15.この授業の改善して欲しい点を具体的に記入してください。

Q16. 教員自由設定質問（選択）

Q17. 教員自由設定設問（記述）

Q18.あなたは「健康・スポーツ実習」でどの種目を行っていますか（体育実技科目のみ）。
12:サッカー　11：テニス　10：卓球　9：ゴルフ
8：体操・トランポリン　7：ダンス　6：柔術
5：ジョギング　4：トレーニング
3：ライフ＆フィットネス　2：室内球技
1：屋外球技

Q19.あなたは「生涯スポーツ実習」でどの種目を行っていますか（体育実技科目のみ）。
6：テニス　5：ゴルフ
4：卓球＆ユニホック(ネオホッケー)
3：ダブルダッチ　2：ストレッチ＆健康体育
1：室内球技

【学部学科・専攻・部門別集計結果】授業担当者の所属別に、専任教員と非常勤教員を分けて集計をした。

教員所属の学科・専攻・部門別平均値　（Q2・3・5～13）　※「－」はアンケート集計対象科目なし

(学部)学科・専攻・部門	（仏教）禅			（仏教）仏教			（文）国文			（文）英米文		
専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q２平均値	2.0	2.0	1.9	2.1	2.1	2.1	2.3	2.5	2.2	2.5	2.4	2.6
Q３平均値	4.0	4.1	3.8	4.0	4.0	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4	4.3	4.4
Q５平均値	4.5	4.3	4.5	4.5	4.6	4.5	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7
Q６平均値	4.5	4.5	4.3	4.5	4.5	4.5	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.6
Q７平均値	4.4	4.4	4.2	4.3	4.3	4.4	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6	4.5
Q８平均値	4.4	4.4	4.2	4.4	4.4	4.5	4.6	4.5	4.7	4.6	4.6	4.5
Q９平均値	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.4	4.6	4.5	4.6	4.4
Q10 平均値	4.4	4.4	4.1	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.5
Q11 平均値	4.1	4.1	3.8	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.5	4.4
Q12 平均値	4.0	4.0	3.7	4.0	4.0	4.2	4.1	4.1	4.2	4.3	4.3	4.3
Q13 平均値	4.1	4.1	3.8	4.1	4.1	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.5	4.3
有効回答数	2,020			2,424			1,822			1,468		

(学部)学科・専攻・部門	（文）地域文化			（文）地域環境			（文）日本史学			（文）外国史学		
専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q２平均値	2.2	2.3	2.2	2.2	2.3	2.0	2.1	2.0	2.1	2.3	2.4	2.1
Q３平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2
Q５平均値	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.6	4.5	4.7	4.6	4.6	4.7
Q６平均値	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.6
Q７平均値	4.5	4.5	4.6	4.5	4.4	4.6	4.3	4.3	4.5	4.3	4.2	4.4
Q８平均値	4.5	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.3	4.3	4.5	4.4	4.3	4.4
Q９平均値	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	4.5	4.4	4.4	4.4
Q10 平均値	4.5	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6	4.4	4.3	4.6	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.4	4.3	4.4	4.2	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2
Q12 平均値	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1
Q13 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2
有効回答数	1,200			1,017			1,472			1,017		

(学部)学科・専攻・部門	（文）考古学			（文)社会学			（文）社会福祉学			（文）心理		
専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q２平均値	2.2	2.4	2.0	2.2	2.3	2.1	1.9	1.9	1.9	2.1	2.3	2.0
Q３平均値	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1
Q５平均値	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7	4.8	4.6
Q６平均値	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.6	4.8	4.6
Q７平均値	4.5	4.5	4.6	4.3	4.4	4.3	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.4
Q８平均値	4.6	4.5	4.6	4.3	4.4	4.2	4.5	4.6	4.4	4.5	4.6	4.5
Q９平均値	4.6	4.5	4.6	4.3	4.4	4.2	4.5	4.6	4.4	4.5	4.6	4.5
Q10 平均値	4.6	4.6	4.6	4.4	4.5	4.3	4.6	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5
Q11 平均値	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.1	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3
Q12 平均値	4.2	4.2	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.3	4.0	4.1	4.2	4.1
Q13 平均値	4.3	4.3	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.4	4.2	4.3	4.4	4.2
有効回答数	692			1,145			1,499			2,348		

(学部)学科・専攻・部門	（経済）経済			（経済）商			（経済）現代応用経済			（法）法律		
専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Q２平均値	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.1
Q３平均値	4.2	4.3	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.0	3.9	4.0
Q５平均値	4.6	4.6	4.5	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.4	4.5	4.5	4.5
Q６平均値	4.5	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.4	4.5	4.5	4.5
Q７平均値	4.4	4.5	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.2	4.2	4.2	4.4
Q８平均値	4.4	4.4	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.2	4.2	4.2	4.3
Q９平均値	4.4	4.4	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.4
Q10 平均値	4.4	4.5	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4	4.5	4.3	4.3	4.2	4.4
Q11 平均値	4.2	4.3	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.0	3.9	3.9	4.1
Q12 平均値	4.2	4.2	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	3.9	3.9	3.9	4.0
Q13 平均値	4.2	4.3	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.0	4.0	3.9	4.0
有効回答数	3,866			2,681			1,754			7,294		

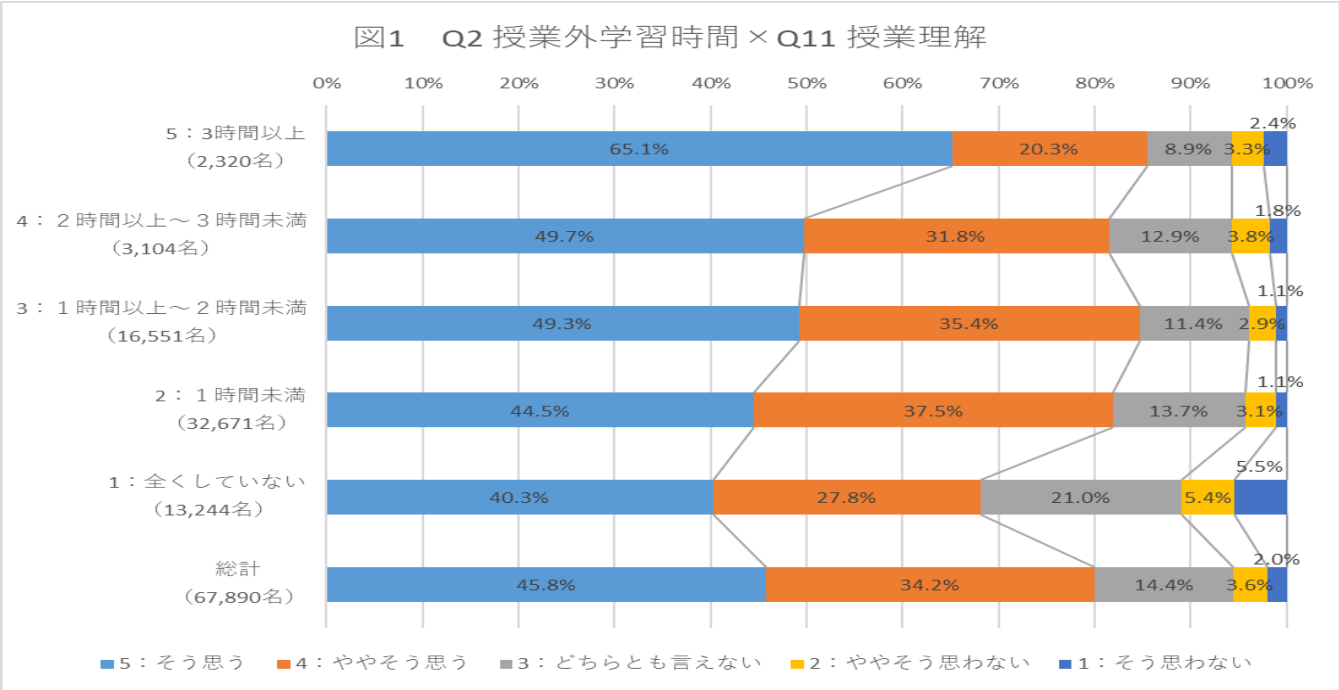
(学部)学科・専攻・部門	（法）政治			（経営）経営			（経営）市場戦略			（医療健康科）		
専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Ｑ２平均値	2.4	2.4	2.2	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.4	2.4	1.8
Ｑ３平均値	4.1	4.2	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	3.9
Ｑ５平均値	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7
Ｑ６平均値	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.7	4.7	4.7
Ｑ７平均値	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.5
Ｑ８平均値	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.4
Ｑ９平均値	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.6
Q10 平均値	4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.3	4.5	4.5	4.3	4.6	4.6	4.7
Q11 平均値	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.4
Q12 平均値	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.3	4.3	4.1
Q13 平均値	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4	4.4	4.3
有効回答数	2,815			3,390			2,002			1,439		

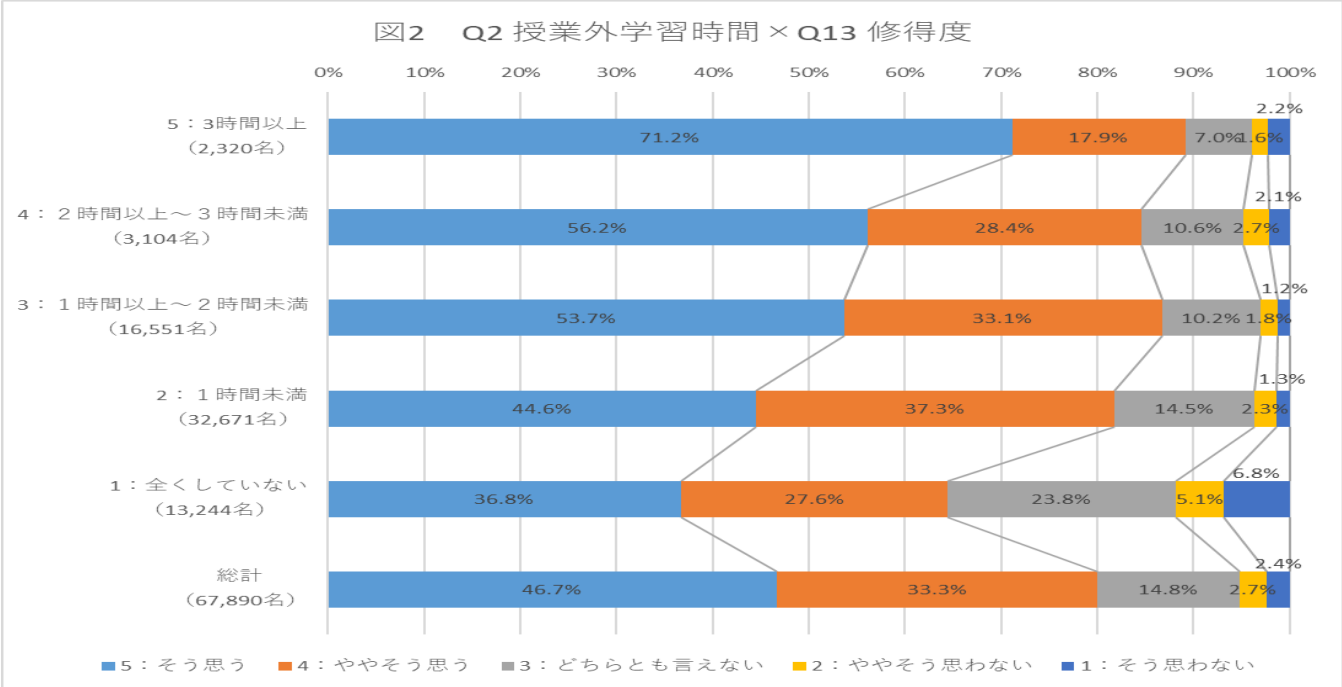
(学部)学科・専攻・部門	（ＧＭＳ）			（総合教育研究）文化学			（総合教育研究）自然科学			（総合教育研究)日本文化		
専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Ｑ２平均値	2.4	2.4	2.5	2.0	2.0	2.0	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.0
Ｑ３平均値	4.3	4.3	4.2	4.0	4.0	4.0	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.3
Ｑ５平均値	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7
Ｑ６平均値	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.7	4.7	4.7
Ｑ７平均値	4.5	4.5	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.4	4.6	4.6	4.5
Ｑ８平均値	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6
Ｑ９平均値	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.4	4.6	4.6	4.6
Q10 平均値	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4	4.6	4.6	4.6
Q11 平均値	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.1	4.2	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4
Q12 平均値	4.2	4.2	4.2	4.0	4.0	3.9	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.3
Q13 平均値	4.3	4.3	4.3	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.4
有効回答数	3,671			3,934			2,339			1,469		

(学部)学科・専攻・部門	（総合教育研究）外国語第			（総合教育研究）外国語第			（総合教育研究)スポーツ・健			（総合教育研究）教職課程		
専任・非常勤区分	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤	全体	専任	非常勤
Ｑ２平均値	2.4	2.4	2.4	2.5	2.5	2.6	1.5	1.5	－	2.1	2.0	2.1
Ｑ３平均値	4.2	4.1	4.2	4.3	4.2	4.3	4.6	4.6	－	4.3	4.3	4.3
Ｑ５平均値	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	－	4.7	4.8	4.7
Ｑ６平均値	4.5	4.5	4.6	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	－	4.6	4.7	4.6
Ｑ７平均値	4.4	4.3	4.4	4.4	4.5	4.4	4.7	4.7	－	4.5	4.6	4.5
Ｑ８平均値	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.7	4.7	－	4.5	4.6	4.5
Ｑ９平均値	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.5	4.7	4.7	－	4.5	4.6	4.5
Q10 平均値	4.5	4.5	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	－	4.6	4.7	4.6
Q11 平均値	4.3	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2	4.6	4.6	－	4.4	4.5	4.4
Q12 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.5	4.5	－	4.3	4.3	4.3
Q13 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.5	4.5	－	4.4	4.4	4.4
有効回答数	7,285			2,651			1,468			1,468		

表1　2020年度後期と2021年度後期の平均値の比較

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
Q3（積極的に取り組んでいるか）	4.22	4.14	4.21	4.18	4.18	4.18	4.15	4.14
Q6（シラバスに沿っているか）	4.63	4.54	4.64	4.57	4.61	4.58	4.61	4.63
Q7（進み方の適切さ）	4.38	4.39	4.35	4.39	4.34	4.41	4.37	4.48
Q8（教材・資料の有効性）	4.42	4.40	4.40	4.39	4.36	4.41	4.41	4.47
Q9（授業環境・雰囲気づくり）	4.34	4.39	4.37	4.41	4.37	4.43	4.41	4.51
Q10（意見や質問への対応）	4.46	4.44	4.46	4.47	4.46	4.47	4.44	4.56
Q11（授業内容理解）	4.07	4.18	4.13	4.16	4.13	4.21	4.15	4.27
有効回答数	24469	27234	17050	23903	9629	12891	3056	3877





【昨年度からの変化】

本年度から履修者 10 名以上の全科目が対象となりましたので，対象となる科目が大幅に増加しました。後期の回答率は 52.6%となり，昨年度後期の 45.7%から 7 ポイントほど上昇しました。後期も引き続きオンライン開講となった授業では学生が C-Learning に触れる機会が増え，アンケートに回答しやすかったことが要因の一つと考えられます。また，今年度から新たに対象となった少人数の授業では，学生に回答を促しやすいといった要因も考えられます。

表 1 は，昨年度後期と今年度後期の設問ごとの平均値を学年別に示したものです。なお，今年度はアンケートの設問内容に一部変更がありましたので，表には比較可能な項目のみを掲載しています。いずれの項目についても，昨年度と今年度の平均値には若干の差しか見られませんが，その中でも，やや変化が大きかった項目について以下で検討します。

Q7（この授業の進み方はあなたにとって適切ですか）は，すべての学年で昨年度より平均値が上昇しています。今年度後期も多くの授業でオンライン形式の授業となりました。オンライン形式の授業では，学生の反応を直接観察できないため，対面授業と比べると授業の進度調整が難しい部分があります。オンライン授業も 2 年目となり，先生方が速度調整のノウハウを蓄積されてきたことが，今年度の改善につながったと考えられます。また，後期は対面形式を再開した授業も多かったので，その影響も考えられます。

Q9（教員は授業内容に沿った話し方や、授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか）についても，すべての学年で平均値が上昇しています。これにつきましても，やはり先生方がオンライン授業に習熟したことに加えて，多くの授業で対面形式を再開したことが寄与しているものと思われます。また，今年度から少人数の授業もアンケートの対象となりましたので，その影響もあるものと考えられます。

Q11（あなたはこの科目の授業内容についてよく理解できていますか）については，昨年度後期と比較して，すべての質問項目の中で最も平均値の上昇が大きかった項目となります。オンライン形式の授業においては，2 年目となり先生方がオンライン授業に習熟したことで，授業内容の質的な向上があったものと推察されます。また，少人数授業がアンケートの対象となったことも影響しているものと思われます。他方，対面授業の再開がこの設問の平均値の上昇にどの程度寄与したのかは現時点ではよくわかりません。今後，アンケート結果を活用した分析を進める必要があると考えます。

Q3（あなたはこの授業に積極的に取り組めていますか）については，3 年生で横ばいとなっているのを除けば，他のすべての学年で若干ではありますが平均値が低下していますが，これについては，昨年度アンケートからの文言の変化の影響があるかもしれません。昨年度は「積極的に」の部分が「熱心に」となっていました。また，Q6（この授業はシラバスの内容に沿って行われていますか）についても，4 年生以外の学年で平均値が低下しています。シラバス作成時点では，後期の授業がどのような開講形態となるのか極めて不透明でしたので，シラバス作成時点で対面・オンラインのいずれを想定していたとしても，想定と異なる開講形態となった授業は少なくなかったものと推察されます。本設問の平均値の低下は，そうした実態を反映したものと考えられます。

【授業外学習時間の影響】

次に，Q2（この授業の授業外学習(予習・復習・課題・試験準備など)の時間は 1 週間に何時間くらいですか）への回答傾向が授業の理解度等にどの程度影響しているかを検討します。図 1 は，Q2 と Q11（あなたはこの科目の授業内容についてよく理解できていますか）への回答をクロス集計したものです。授業外学習時間が長い学生ほど，授業の理解度が高いと回答する傾向を読みとることができます。図 2 は，Q2 と Q13（あなたはこの授業によって力がついたと思いますか）への回答をクロス集計したものです。授業理解度の設問と同様に，授業外学習時間の長い学生ほど「授業によって力がついた」と実感している傾向が表れています。

FD NEWSLETTER 第 63 号で指摘されております通り，新型コロナウィルス感染症対策のために多くの授業がオンライン形式となったことにより，各授業で課題の量が増加したことや，通学や部活動・サークル活動の時間が減少したことで，授業外学習時間は引き続き高い水準で推移していると考えられます。授業外学習時間の増加が授業の理解度を高めることはこれまでの分析でも繰り返し指摘されておりますので，仮に今後対面授業が全面的に再開となった場合に，今と同等の授業外学習時間を確保するにはどうすればよいか，その方法を検討する必要があるものと考えられます。

最後になりましたが，授業アンケートへのご協力に感謝申し上げます。そして，先行き不透明な中で授業を受けた学生の皆さん，授業を展開された先生方，それらを支えてくれた職員の皆さんに，心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

（北條　雅一）

連載企画：よりよい教育のために

対面式グループ・ワーク発表から オンライン発表へ：紆余曲折の試み

総合教育研究部 教授　矢野　秀武

筆者は以前､駒澤大学ＦＤ推進委員会発行の冊子『駒澤大学ＦＤハンドブック　―よりよい教育のために―（改訂版）」（2014 年 12 月）に、「講義授業におけるグループ・ワークの試み」といったエッセイを寄稿した。その内容は、数回の授業にわたって口頭での個人発表の準備・実演・評価を行うという実践方法の説明であった。また学生同士の交流を増やすことと、個人間・グループ間競争を通じて発表技術を向上させることを、グループ・ワークの目的として据えていた。

その後も筆者はこの方式をいくつかの講義授業で行ってきたのだが、新型コロナ感染拡大に伴う授業のオンライン化により､この方式を変える必要が出てきた。教場に来る学生と、オンライン出席の学生が混在する状況では､継続的なグループ･ワークは非常に難しい。また特にオンライン化導入の初年度は､学生のスキル、通信環境、利用可能な機器のスペックにばらつきが大きく、リアルタイム配信での個人発表ができるかどうか不明であった。

しかしながら、個人発表の機会を望んで履修登録をした学生もおり、何らかの形で、一種のグループワーク的な個人発表の場を設けることが必要と考えられた。そこで筆者がとった対応は、各自が発表用のコンテンツを作成し、オンライン上で公開する（オンデマンド配信の方式）というものであった。つまり、教員が行うオンデマンド授業と同じように、パワーポイントやワード等を利用しながら音声や動画なども合わせたコンテンツを学生自身が作成し、それを他の学生向けに公開して、相互に批評し合うという手法である。

当初はこのような形による､PC･通信機器のやや高度な利用が学生に可能であるかどうか不安でもあった。しかし、近年のデジタル技術の利用に関しては、教員よりも学生の方が習熟していると思える。加えて、コンテンツ作成の動画等もネット上で閲覧できるうえ、筆者自身でもオンライン授業用のパワーポイント作成や音声ファイル作成に関するマニュアル動画を作成済みであった。

これらをもとに、学生には、Zoom での発表動画、パワーポイントに音声や自身の動画を組み込んだファイル、もしくは、ワード等の発表資料と音声ファイルのどれか（いずれも 10 分間の発表）を提出してもらうということにした。そして、提出してもらったファイルを、C-Learning から閲覧可能な状態に配置し、各学生にオンデマンド配信で閲覧してもらうようにした。また学生は各発表へのコメントを付したファイル（教員が用意したエクセルファイル）を教員宛に提出し､さらにそのコメントを教員が各発表者別に分割し、匿名化して配布するという形にした。

この方式を昨年度と今年度の 2 回実施してみた。いずれにおいても途中で履修をあきらめた 1～2 名の学生以外は全員課題を提出している（各授業 20 名弱の履修生)。もちろん、事前の準備段階で教員からの少しばかりの技術的サポートが必要であったが、それは教員間で行なわれている技術的サポートと変わらないか、むしろそれよりも簡単であった。

この方式の（準）グループ・ワーク実施の利点としては、学生にとっては、近年の就活面接でも必要とされるオンラインでの発表技術やコンテンツ作成の基礎技術が身につくこと、オンデマンドなので他者の発表の工夫を何度も見て確認できること、通信環境のばらつきの影響を受けにくいことなどがあげられる。また教員向けの利点としては、パワーポイントや動画等の利用に長けている学生の発表は授業への参考になることがあげられる。例えば、物語の説明は文字を多用するよりも、紙芝居形式でイラスト等を中心に用いた方が、臨場感が増して引き込まれるということに気づかされた。

逆に、問題点としては、対面式の緊張感がなく、また対面時のグループ・ワークの目的の一つであった学生間の交流が十分になされない点があげられる。ただしこの点は、現在オンライン授業がかなり定着し、学生のスキル、通信環境、PC 機材のスペック等のばらつきも小さくなってきたようなので、リアルタイム配信でのオンライン個人発表も問題がないと思われる。とはいえ、オンライン上の交流では、顔出しできないケースなども含め、学生同士の距離感は対面式ほど縮まらないだろう。

最後に、学生の発表における引用の問題について述べておきたい。オンライン発表と直接かかわる現象とまでは言えないのだが、対面時と比べて、発表資料等の作成における、ネットからの引用の増加が増えたように思える。なかでも Wikipedia の多用、信頼性の低いサイトを情報源として引用するケースの増加といった問題が見られる。これは図書館の利用が十全にできなかったことが影響しているかもしれないが、フェイクニュースへの対応も含め、ネット情報を吟味できるリテラシー教育に、今以上に力を注ぐ必要を感じている。

令和３年度第３回ＦＤ研修会報告

令和３年度の第３回ＦＤ研修会が２月 15 日（火）15 時 00 分～17 時 00 分、Google Meet で行われました。今回は「令和３年度学生が選ぶベスト・ティーチング賞」において受賞された先生方に講演をいただきました。

第１部はコロナ禍のオンライン授業の中で具体的にどのような工夫や取り組みを行っているのかについてそれぞれ事例紹介をしていただき、第２部では、受賞された先生方の授業の舞台裏を座談会形式でお伺いました。

はじめに今回よりベスト・ティーチング賞の選出方法が大きく変更されました。これまでベスト・ティーチング賞を３回以上受賞された先生は「殿堂入り」となり選出外となっています。専門教育科目、全学共通科目と２部門に分けて４名ずつを選出し、また新たな選出方法としましてプラスワン賞（学生が選ぶベスト・ティーチング賞及び殿堂入りを除いた、得票数 10 票以上の上位１科目）が創設され、こちらも８名の先生が選出されました。

今回の研修会では専門教育科目、全学共通科目と２部門で受賞･選出された先生に講演をいただきました。講演順に、髙田実宗先生（法学部）、川村稔先生（経済学部）、吉村純一先生（経済学部）、加藤博巳先生（文学部）、金澤誠先生（法学部）、別所裕介先生（総合教育研究部）、矢野秀武先生（総合教育研究部）。

今回お話しくださった先生方の共通点として私が感じたことは、コロナ禍という通常でない学生の受講環境の中、各先生が一方通行の話だけではなく、表やグラフなどの見やすく整理されたデータ、映像や音楽を駆使して分かりやすく、テーマに入りやすいように工夫をされていました。また生活の中で起きうることを実例として取り上げ、その対応策を考えさせる等々。実に工夫を凝らし学生を飽きさせない、オンラインという環境をフルに活用し、難しい授業内容でも学びやすいようにされていることを感じました。自分が学生の時に「このような授業があればよかった」と思う工夫ばかりであったように感じました。また、どの先生も授業後の学生へのアフターフォローを充実されていると感じました。以前、私の授業である学生が「レポートを提出しても何も言葉もなく、ただ評価をしている先生って何ですかね」と聞いたことがありました。C-Learning 等でレポートを提出する学生へのリアクションなども、授業によっては履修している人数が多く、一人ひとりに返答することは非常に大変です。今回受賞された各先生はきめ細やかに対応をされており、それを受ける学生も次の授業の励みになるかと思います。

それから先生方ご自身が楽しみながら授業をされており、 学生にもその楽しさが伝わるように、常に考えられているということがわかりました。「確かに教員自身が授業を楽しめなければ、学生に授業の楽しさを伝えることはできない」と、自身の授業を振り返り、考えさせられました。

その一方で、授業内容に興味をもった学生達を、その次のステップである自発的学習者へと導いていくことの難しさです。この点は私も体育関係科目（講義・実技）を受け持ち、常に悩みどころの一つです。学生が興味をもってくれそうな題材を使用して授業を行いますと、学生達はそれなりに楽しんで授業に取り組んでくれるように感じます。しかし、授業以外で自発的学習テーマを見つけて取り組んでくれるかというと、決してそうではないと思います。授業後に自ら授業内容を発展させることで自身の成長が感じられるのではないでしょうか。これは勉強でもスポーツでも同じだと思います。実技科目でも講義科目でも学生達を自発的学習に導くという課題は、高等教育の中での大きな課題ではないでしょうか。

駒澤大学の学生が「大学卒業（学士）」の証明書を取得するだけではなく、社会人として自立する準備段階の教育というのが必要な気がします。授業内容はもちろん、受講者の「学びの」モチベーションも高めていけるような内容が求められていると今回の研修会を通じ感じました。

「良い授業とは何か」「良い学びとは何か」各教員が常に考えていかなければならないことが必要だと思います。

（瀧本　誠）

令和４年度新規採用教員オリエンテーション開催のお知らせ

新規採用の専任教員及び非常勤講師を対象にした「令和４年度新規採用教員オリエンテーション」を、令和４年４月１日（金）に開催を予定しています。

オリエンテーションを開催する目的は、本学の建学の理念、教育目的を理解いただき、授業に臨んでいただくこと、本学の様々な施設や事務手続きをお知らせし、授業を円滑に進めていただきたいこと、そして実際の授業運営にあたって、個人情報保護やハラスメント防止に留意していただきたいこと等をお伝えすることにあります。

編集後記

『FD NEWSLETTER』第 68 号をお届けします。巻頭言は、教務部長・学長補佐の絹川真哉・GSM 学部教授、連載企画「よりよい教育のために」は、総合教育研究部･矢野秀武教授にご執筆頂きました。また、令和３年度授業アンケート（後期）の分析結果を経済学部・北條雅一教授、第３回ＦＤ研修会について総合教育研究部・瀧本誠准教授にそれぞれご執筆頂きました。各先生方にはご多用中の折、いずれも読みごたえのある原稿をお寄せいただき、心より御礼申し上げます。

前年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスへの対応を前提とした授業運営が続きました。前期授業開始早々、新たな変異株による感染拡大の波が繰り返し襲ってくる中、多くの講義で、学期途中から対面授業へ移行したり、あるいはオンライン配信と対面授業を同時に行うハイフレックス型の講義を実施したりするなど、未経験の模索に取り組まざるを得ない一年でした。

ただ、前年度のＦＤ研修会などの場でオンライン／ハイブリッドの講義実践について知見を積むことで、事前にある程度の心構えができたことは大変心強いことでした。そのような実感は、コロナ二年目に入った今年度のＦＤ研修会でも同様に味わうことができました。各研修会でご発表頂いた演者の先生方からは、正にいま現在進行中の、変異株による流動的な状況に対処するために必要な、実戦に即した多様な取り組みが紹介されると共に、あらゆる講義運営上の工夫は、受講者である学生にとって最も満足のいく学修環境を構築する、という一点に尽きるということを、改めて学ばせていただきました。

この年度末、新たな派生株が徐々に広がりを見せる中、次年度の講義についても、さらなる工夫が必要となることが予想されます。感染予防を徹底しつつ、ここまでの二年間の経験に立脚した、新たな授業デザインを模索していければと思います。

今後とも、ＦＤ活動へのますますのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

（北條　雅一・瀧本　誠・別所　裕介）

※駒澤大学ＦＤ（Faculty Development）ホームページは、以下 URL か QR コードからアクセスできます。

【URL】https://www.komazawa-u.ac.jp/about/fd/

【タイトル横の写真は、３号館（種月館）２階
ラウンジ「ウィステリア」】

FD NEWSLETTER Mar.2022 第 68 号

発行日：2022 年 3 月 15 日
発行者：駒澤大学ＦＤ推進委員会
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1
TEL 03-3418-9444　Fax 03-3418-9114
（事務局：教務部）